2015年9月1日

第18号



地域を、町を、山形を、そして日本を元気に!! ち か こ しんぶん

周子新聞

発行:志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会

(事務局:西川交流センターあいべ内) 120237-74-3131

〒990-0703 山形県西村山郡西川町大字間沢 280

映画「いしや先生」11月7日上映開始

山形県先行上映 前売チケット発売開始

たくさんの方々のご支援、ご協力により製作を進めておりました映画「いしゃ先生」がこのほど 完成し、11月7日から県内7つの映画館で一斉上映開始されます。

前売りチケットの販売を開始しました。7つの映画館共通で1,100円の特別価格になります。

取扱窓口

西川交流センターあいべ事務室(TeL0237-74-3131)

西川町観光案内所(道の駅にしかわ TeL0237-77-1332)

月山朝日観光協会事務局(町役場2F TeL0237-74-4119)

水沢温泉館(Tel0237-74-2100) 大井沢温泉館(Tel0237-77-3536)

ししゃ先生 あらすじ

昭和 10 年、東北の山村にもようやく遅い春が来た頃。雪解けの峠道を歩くハイカラな女性がいた。志田周子、25 歳。故郷の父から『ハナシタイコトアリ スグカエレ』という電報を受け取った周子は、取るものもとらず帰郷したのだ。東京女子医専を卒業後、系列の今村内科で勤務し臨床を学び始めて2年目のことだった。

久しぶりの実家。幼い弟たちは周子に甘え、母・せいが手料理でもてなす。温かい出迎えを周子は喜ぶが、父・荘次郎の様子がおかしい。村長でもある荘次郎は、周子の了承も得ぬまま村に周子名義の診療所建設の予算を通し、すでに建設が始まっていたのだ。「頼む、周子。3年だけ我慢してくれ。その間に、必ず代わりの医者を見つけるから」父に頭を下げられた周子は、怒ることはできなかった。無医村のこの村に医者を置きたいという父の願いは、誰よりも理解

していたから。まだまだ未熟な自分が一人で診療所の医師などつと まるのか……不安を抱えつつ、周子は3年間だけ頑張ってみようと 心に決める。

いよいよ、念願の診療所が開設された。だが患者は一人もこない。 病気はロクサンと呼ばれる祈祷師がお祓いすれば治ると信じられて いた時代。「あだなオナゴ医者に診でもらっても命縮めるだげだ」周 子のような駆け出しの女医が信頼を得るのは難しい時代だった。

――自身に降りかかる数々の試練に耐え、過酷な運命にも負けず、 昭和 37 年にこの世を去るまで、たったひとりで村人の命を守った 「いしゃ先生」の物語。



8月1日月山マルシェ会場

西川町をはじめ町外、山形県外 の食べ物や手作りの工芸品などを 集めた第2回月山マルシェ。快晴 の弓張平公園にたくさんのお店が 集結しました。

大勢の参加者で賑わう会場に大型ポスター を掲示し、映画「いしゃ先生」山形先行上映 の P R を行いました。

会場では、甦らせる会理事の土居洋平先生 率いる東北文教大学と跡見学園女子大学の学 生さんにより参加者へのPRに努めていただ きました。





映画づくりボランティアに参加して

西川町婦人会 工藤悦子さん

私が社会人になった昭和37年、職場の上司で当時町会議員であった横山万藏さんが「西川町 にとって大切な人を失った」と落胆し、残念そうに話をしていたことを思い出しました。

豪雪地帯で女医として独身を貫き、生涯をへき地医療に捧げた志田周子先生の映画化は、何故 か特別な思いで繋がり、興味深いものがあります。

町民総参加の「西川町の新しい町おこし」と聞いていましたので、何かお手伝いできるものがあ ればとずっと思っておりました。そんな折、奥山婦人会長から衣装づくりのボランティアの話が あり、映画づくりに活用してもらえるならと、ずっと大事にタンスに収めていた祖母と母の古着 を持って参加しました。衣装づくりには25人ほどのボランティアが参加し、各自持ち寄った着 物は、映画制作の衣装担当、プロの指導のもとで当時の普段着に作り替えられていきました。当時 の生活の様子を語り合い、また、周子先生の活躍を偲びつつ、映画づくりに参加できた喜びを皆で 分かち合えた有意義な活動でした。

映画制作も終盤を迎えた2月6日には真冬の大井沢ロケが実施され、今度は炊出しボランティ アの話があり参加しました。以前秋の刈り上げ餅の時期に永江監督や助監督らを自宅にお誘いし 懇談した折、現場の様子を伺う機会がありました。映画制作に携わるスタッフの皆さんは、予算や 時間などの制約の中で、食事を作る余裕もなく、滞在中はコンビニの食事が多いとのことでした ので、手作りの料理でもてなしをすることになりました。炊出しボランティア5人、昼食のメイン は肉うどん45人分、夕食はカツカレー35人分。材料は事務局で準備してくれましたので、私た ちは、干しアケビの詰煮、おでん、漬物などを持参し、地元からも味付け卵の差し入れが加わり調 理開始です。出来上がった肉うどんと心を込めて作った料理を順番に食べてもらっている最中、 ロケ関係者が65人ほどいることが分り、調理場は材料不足で大騒ぎになりました。湯茶接待の大 井沢婦人会の方々がいらしたので、不足する食材を民宿や知人宅から何とか調達していただき急 場をしのぐことができました。夕食のカツカレーに不足するお米、野菜、肉は大井沢婦人会の方に 再度調達をお願いし、カツは半分に分けて召し上がっていただきました。少し多めに準備したの で、お代わりにも対応でき地元の皆さんには感謝感激です。

大勢の皆さんの熱意と感動が詰まった映画の完成をとても楽しみにしております。